

友の会通信

130
2025.12

The collage consists of 18 individual photographs arranged in a grid-like fashion, capturing various moments from the 'Yorozu Station Leaf Vein Standard' event. The top row shows the event's location at a station with a sign that reads 'よるすスタジオ 葉脈標本むくろう' and provides a schedule for the day. Subsequent rows depict participants engaged in different activities: some are drawing or painting on a large sheet, others are examining plant specimens or small objects, and some are foraging in a stream. A central image shows a hand holding a radish, and another shows a collection of small, round objects in a tray. The bottom row features a man speaking into a microphone, a display of various items, and people participating in a stream activity.

友の会講座の企画募集をしています
ご自分で講座プログラムを立ち上げて見ませんか

— 目 次

事務部より	2
情報クリップ	2
活動報告	3
行事案内	9

事務局より

2025年度第4回友の会役員会の開催

2025年9月20日(土)14時より、今年度第4回の友の会役員会を開催しました。

現在の会員数及び収支についての報告がありました。昨年度と比較すると多少少ない人数、それに伴い収入も減収予定となりますが、運営的には問題はなさそうとのこと。執行面では近年の物価高騰により印刷代が高くなっているが、広報部では費用節約に努めている、また中間会計監査が10月に実施予定との報告がありました。事務局からは2026年度の総会について、日時は2026年4月26日(日)を予定、総会イベントについて今回は博物館の酒井恒コレクション関係の講演会を予定しており関係者と調整中とのこと。また懇親会も予定しています。

企画部からは今年度下半期の講座の確認及び来年度の講座の状況等の報告がありました。また2026年3月開催予定のミューズフェスタ2026について、実施内容の確認等が行われました。

友の会講座企画の事業を募集します！

友の会講座事業でこんなことをやってみたい、たとえば昆虫の講座をやってみたい、魚類の講座をやってみたい、哺乳類の講座をやってみたい、などなど、会員の皆さまのお持ちになっている企画について、ひろく募集いたします。次の1～5の項目をご記入いただき、友の会宛てにご連絡ください。

■ 企画内容

1. 氏名・会員番号
2. 企画の名称
3. 内容(20字程度)
4. 実施の時期
5. 実施場所・方面



情報クリップ

2025年度 友の会会員数:330名(10月31日現在)
正会員:327名/賛助会員:3名

●「ミューズ・フェスタ2026」のお知らせ



2025年3月開催の様子

開催期間:2026年3月14日(土)～
3月15日(日)

ミューズ・フェスタは博物館の開館記念日を祝うお祭りです。地域の方々をはじめ、来館者のみなさまへの日頃の感謝とともに、子どもも大人も博物館に親しんでいただける企画を準備しております。この2日間は常設展示と企画展が無料でご覧いただけます。どうぞみなさま お気軽にお越しください。

●博物館からのお知らせ

最新の情報は、博物館ウェブサイトや公式X(旧Twitter)でお知らせしますので、ご来館の際は必ず事前にご確認ください。

問合せ先:神奈川県立 生命の星・地球博物館

企画普及課 TEL: 0465-21-1515

FAX: 0465-23-8846

・ウェブサイト: <https://nh.kanagawa-museum.jp/>

・公式X: @seimeinohoshiPR

・混雑情報X: @seimeinohoshiCI

年末年始休館のお知らせ

2025年12月28日(日)～

2026年1月5日(月)

上記期間中は当館は休館となりますので、あらかじめご了承ください。

活動報告（地学グループ）

◆地話懇話会「植物の化石化過程」

2025年8月27日（水）／博物館講義室／18名／
講師：山川隆良氏（箱根ジオミュージアム学芸員）



講師の山川隆良氏

古植物学・博物館学を専門とする若い山川先生の興味深いお話を石炭や珪化木などの植物化石の標本とともに楽しませていただきました。

植物の化石化過程には、①埋没過程、次に②石炭化過程、または③珪化過程が挙げられる。

①→化石として残るためには、分解されにくい部分や数が多い部分（花粉、葉、樹幹、樹脂など）が、湖、湿地、海といった堆積しやすい環境に埋められたり、火山噴火など急激なイベントにより一気に埋没することが条件となる。

②→埋没とともに長い時間・高い圧力が加わることで炭化が進行する。特にプレートの沈み込み帯では圧力の影響が大きく、炭化が進みやすい。セコイヤやマツに近縁な植物では、炭化した堆積物中に琥珀（樹脂の化石）が伴われることも多い。



丁寧に話される山川さんとわかりやすい画像

③→埋没した植物組織に地下水が浸透し、とりわけシリカを豊富に含む温泉水などが細胞間に沈殿すると、組織の形を保ったまま珪化した化石として保存される。



標本写真と熱心に聞き入る皆さん

こうしたプロセスをわかりやすく、また楽しく語っていただいて、大変楽しい学びの時間となりました。私は、今は定年して小中学生（次世代の科学者たち）を相手にNPO活動している身ですが、現役時代は深海微生物学の研究に長年携わってきた者として、大変興味深いお話でした。個人的には、植物の石炭化プロセスと石油化プロセスの比較や、それぞれの発酵過程における微生物の関与などのお話をもっと聞きたかったのですが、それは次回のお楽しみということとっておきます。



山川さんの説明を基に標本に見入る

最後に、講師の山川先生はじめ、今回の運営をされた地話懇話会の関係者の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。（加藤 千明）

活動報告（よろずスタジオ）

◆「葉っぱであそぼう」

2025年9月7日（日）／博物館講義室／59名（大人30名、子ども29名）／担当：友の会よろずスタッフ5名

会場入り口の案内を見て、これ何？こんなのを作るのかな、葉っぱだね、と言いながら入ってこられた参加者。葉っぱがいっぱいおいてあるテーブルに着いて葉っぱのお話を聞く。葉っぱにはいろいろあるね、大きい葉っぱ、小さい葉っぱ、ギザギザがある葉っぱもある。今日はこの葉っぱを見て触って考えて、葉っぱのいろいろを楽しんでみてください。

今日の作業は2つ

作業① いろいろな葉っぱのなまえ調べ
名前を調べて葉っぱ図鑑を作ります。ヒントはテーブルの真ん中に並んでいる葉っぱ付の枝、枝には名前が付いているので、目の前の葉っぱをよく見て触って比べて・・・名前を付けてください。名前が分かったら台紙に貼っていきます。葉っぱに名前が付いたら、葉っぱ図鑑の完成です。

作業② 葉っぱのこすり出し
葉っぱを選んで紙の下に置き、上からクレヨンでこすり出します。上からしっかり押さえて葉っぱが動かないようにするとうまくできる。葉っぱの筋やギザギザがきれいに出るようにこすり出して、葉っぱのこすり出し絵完成です。

会場の「いろいろな葉っぱ紹介」というコーナーでは、蜜腺を持つ葉っぱ、香りがする葉っぱ、とげを持つ葉っぱ、また、これで1枚の葉っぱという複葉の葉っぱなどが並べられ、クサギやヤマコウバシの葉をちぎってにおいをかいだり、サクラの蜜腺を虫眼鏡でのぞいたり、またスタッフから1枚の葉っぱについての説明を受けたりしていました。

聴いて、見て、触って、作っての今日のよろずスタジオ、子供たちは手作りの葉っぱ図鑑と葉っぱのこすり出し絵を入れたクリアファイルを手にして嬉しそうに会場を後にしました。

（友の会 佐々木あや子）



くらべてみよう、どこが違うのかな？



葉っぱ図鑑の完成！



葉っぱのこすり出し



においを嗅いだり触ったり・・・

いろいろな植物観察

活動報告（サロン・ド・小田原）

◆第144回サロン・ド・小田原

「鳥瞰図や地図を楽しむ。特別展『初三郎式、かながわの描き方』より」

2025年9月13日（土）／西側講義室／32名
新井田 秀一氏（当館学芸員）

今回は、現在開催中の特別展「初三郎式、かながわの描き方」について、新井田さんから解説頂きました。まずは「なぜ博物館で絵の展示をするのか？」新



今回の話題提供者 新井田秀一学芸員

井田さんの専門は人工衛星の画像解析。2017年、県立歴史博物館とのコラボをきっかけに、歴史博物館の武田学芸員と鳥瞰図の共同研究をしています。この展示はその成果発表との事。

前半は展示について、かいつまんで4つ紹介。

- ① 初三郎式鳥瞰図とは？：鳥の視点から見下ろしたような地図で、地形表現が特徴。奇しくも作者の吉田初三郎は今年没後70年。「実は展示の年表を作成したときにそれに気づいて……。ちょっと遅かった(笑)。」と新井田さん。
- ② 神奈川県鳥瞰図の再現(研究)：鳥瞰図は地形表現がリアルで、例えば宮の下を拡大すると河原には大きな石も。この地図の視点を計算し、CGでの再現を試みる。地形の歪みや、鉄道や河川などの形から鳥瞰位置を探る。
- ③ 昭和初期の神奈川：鳥瞰図に描かれた観光地や交通網にも注目。横浜と東京をつなぐ鉄道や外国をつなぐ海路も。関東大震災からの復興アピールや外国人観光客誘致(外貨獲得目的)がこの絵図の作成経緯。一方、戦争に向かう暗い時代でもあり、鳥瞰図には海軍と陸軍の2つの検閲印も。
- ④ 箱根名所図絵：版数違いの沢山の絵図（2ケース分）5～7版では金時山に祠も。表紙の植物はハコネシダ？美術館展示との違いは、絵図の裏側も見せた事。「違いを見つけてみましょう！」

後半は、新井田さんと実際に会場を回りました。まず入口にボードがあり、8の字のような変わった順路

が書かれています。でも実はこれが展示で一番こだわったポイントだそう。順路通り進むと壁に幅4m超の神奈川県鳥瞰図、足元には大きな地形図が。絵図を見て、地図を見る・・・と、ここで新井田さんから「そもそも皆さん、地図は読めますか？」と質問（等高線は読めません、と心の中で私）「より地形をイメージするため立体の地形模型も置きました」つまり、絵図＋地図＋模型の3点セットの配置を優先した結果、この動線に。また“check”や“point”マークにも注目です。



絵図＋地図＋模型の3点セットの配置

その後は足元の地図をめぐり会話が飛び交いました。部分によって地図の時代が異なる（軍事施設は剥ぎ取られて無い）、田んぼ記号が2種類？（これも軍事目的）、所々地図の所有者が引いた赤い線は歩いた道か？、「地図は使ってナンボ」と新井田さん、箱根の等高線は溶岩が流れた地形、等々。地図の分野は自然と歴史の境界領域だそうで、地図を追っていくと確かにそれが感じられます。また新井田さん曰く「地図は床に大きく広げて見るもの。これは一番贅沢な見方です。」



展示室で地図を贅沢に見ています。

最後に駆け足で、箱根名所図絵ゾーンの解説。初版から第3版までは結構違う、4版以降は小さな違い。よく見るとどれも伊豆大島が噴火している（昭和初期大島は火山活動が活発だった）、等。

私自身は、今回特に鳥瞰図の視点の検証が面白いと思いました。新井田さん、興味深いお話をありがとうございました。（浜崎英子）

活動報告（菌事勉強会）

◆「農業技術センター見学会」

2025年9月24日（水）／神奈川県立農業技術センター／10名／講師：二村友彬氏（神奈川県立農業技術センター生産環境部病害研究課長）



赤い防虫網の前で説明の二村課長

9月下旬に入りましたがまだまだ暑い日々が続く中、神奈川県農業技術センターへ見学に行ってきました。平塚駅からバスで30分ほどの場所にあり、立派な管理棟とその周辺に広大な実験圃場が広がっています。

最初、職員の方からセンターの組織・役割等の概要説明がありました。新品種の開発や病虫害駆除の研究のほか農家への技術指導や経営相談なども重要な役割だそうです。センターは農家にとっても心強い存在になっているようです。

説明の後は楽しみの圃場見学です。敷地内に露地、ハウス、果樹園等きれいに区分けされ、様々な作物が栽培されています。防虫ネットを赤色に変えると害虫が寄ってこないとか、ネギと大麦を一緒に植えると天敵が増えて防虫効果が増すとか、目からうろこの新技術を紹介してもらいました。

果樹園では梨のV字ジョイント栽培を見学しました。樹形をV字型に整え一列に揃えることで収穫や剪定作業が楽になり、大幅な省力化に繋がるそうです。このような新技術が広まって、果樹栽培の新たな担い手が増えることを期待します。

2時間という短い時間でしたが、ちょっとした大人の社会科見学のように密度の高い楽しい時間を過ごしました。（友の会 川名隆重）



V字仕立ての梨を見学

神奈川県農業技術センターは都市農業の最先端の技術と研究の開発を行う場所です。見学会では施設の概要と広大な敷地内にある研究作地を案内して頂きました。

とても興味深かったのは、色彩効果を利用した害虫防除です。アザミウマは赤色を認識できない性質があるため、ここで開発された赤色防虫ネットは侵入抑制効果がとても高いそうです。アブラムシは黄色を好むので、黄色いバケツに水を張り飛び込ませる、など家庭菜園でもできそうなことも教えて頂きました。他にもバンカープランツやフェロモントラップの設置による減農薬のための取り組みなど、食の安全に重要なことばかりでした。



水を張った黄色いオケ

また、人手不足や高齢化による負担軽減が期待できるドローンやAI、ロボットを使ったスマート農業の開発には、日本の農業の明るい未来を感じました。

様々な取り組みが広く知れ渡り、日本の農業がもっと支持されて欲しいと思いました。（小俣）

活動報告（植物グループ）

◆植物観察会「身近な植物観察入門」

2025年9月27日（土）／博物館周辺／11名
（スタッフ含む）／担当：植物グループ

9月下旬、ようやく暑さが落ち着き、今回の参加者は8名、リピーターの方が多かったのですが、初めての参加の方もおられました。

博物館前庭の植え込みで、マツバランの観察をした後、吾性沢方面へ向かいました。水路沿いのイヌカタヒバやクリハランなどのシダ観察、少し行くとピンクの花と果実をたくさんつけたアレチヌスビトハギが見られました。この後ヌスビトハギも出てきました。足元にはナガエコミカンソウが長い柄の先に丸い果実をたくさん付けていました。近くにコミカンソウもあり、参加者の一人が図鑑を広げるとみんなで葉や果実を熱心に観察、コミカンソウの果皮のぶつぶつも確認していました。この仲間は雌花と雄花が違うということで雄花を探しましたが、すでに雄花は落ちてしまっていて、観察できませんでした。

生垣のイヌマキにはたくさんの実が付き赤く熟した花托の上に緑色した種子がちょこんと乗っていました。この熟した花托は食べられ緑色の種子は有毒ということです。道沿いのカラムシやペラペラヨメナを観ながら登って行くと前の方で「このピンクの花、きれい!」「あ、ハグロソウですね。」と参加者の声も弾みます。いろいろな角度からカメラを向けてパチリ。「同じ仲間にキツネノマゴがあります」と聞くと、さっそく「キツネノマゴはここにあります」との声。シソ科のレモンエゴマの葉を少しちぎってみんなで匂いを嗅いだり、花を付けたヒヨドリジョウゴの葉を触ってふわふわした感触を楽しんだりしながら歩いていきました。オカダイコンがたくさんの白い花を付け、クリーム色の花を付けたハダカホオズキにも出会えました。シュウカイドウも満開で、雌花と雄花の違いを観察しました。

この辺りでそろそろ帰る時間です。帰りは三叉路を右に折れ下っていくことにしました。途中むかごを付けたコモチシダ、私たちの背より高いキダチコマツナギ、花盛りのセンニンソウを観察しながら下り、線路沿いの細い道でカラスノゴマの花を観察して入生田の駅で解散しました。（友の会 佐々木あや子）



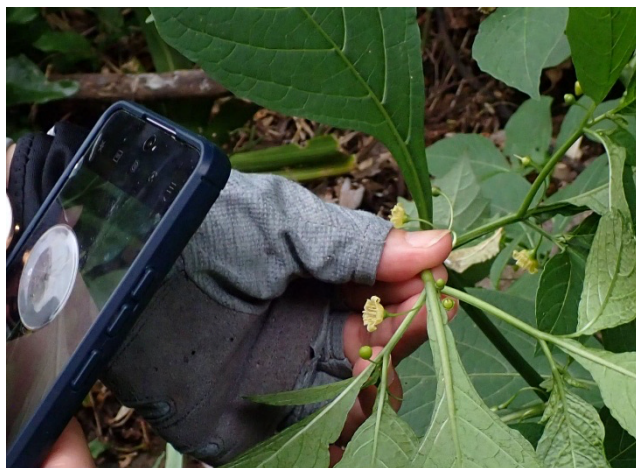
アレチヌスビトハギ



ハグロソウ



ヒヨドリジョウゴ



ハダカホオズキを撮影する参加者

◆植物観察会「身近な植物観察入門」

2025年10月25日(土)/博物館周辺/8名(スタッフ含む)/担当:植物グループ

天気予報では11時ころまで曇りマークだったので決行したが、集合したところから小雨、後半は本降り、傘を差しての観察会となった。

9月の身近な観察会と同じコースを散策した。約1カ月でどのような姿に変わっているか、観察していただこうと思った。

9月の観察会で見られた水路沿いのイヌカタヒバヤクリハランなどのシダは、そのままの姿であったが、ピンクの花をつけたアレチヌスビトハギは枯草となっていた。また、ハグロソウ、キツネノマゴやヒヨドリジョウゴの花は終わっており、ヒヨドリジョウゴの赤い実が見られた。

カラスウリの果実が残っていたので、中にある種子の形を観察した。帯のお太鼓結びに似ている。また打ち出の小槌にも似ていて、これを財布に入れておくと、ザクザクとお金が増えるとか。

マルバフジバカマが満開であった。鹿が食べないので、箱根の湯坂道などでは、これが群生状態になり異様な景観となっている。

前回の時にもオカダイコンがたくさんの白い花を付けていたが、10月の今回も満開状態、花期が長いことがよく分かった。

9月には、クリーム色の花を付けたハダカホオズキはもう赤い果実になっていた。雌雄同株のシュウカイドウは9月と変わらず、雌花と雄花をつけていた。

最後にレモンエゴマの残り花を観察して、雨の観察会は終了、入生田駅前で解散した。

(友の会 山田 隆彦)



マルバフジバカマ (キク科)



オカダイコン (キク科)



レモンエゴマ (シソ科)



カラスウリの果実を観察



雨の中の観察会風景

行事案内

◆ 地話懇話会

『街角地質学～日本の近代化を支えた石材』

これまでの石材に関するイベントは、箱根地域で、箱根の石材を紹介するものが多かったのですが、今回は視野を広げ、日本国内の近代建造物に使用された石材に焦点を当て、建造物と共にその魅力を紹介します。

講師にお迎えするのは、『街の中で見つかるすごい石』や『東京「街角」地質学』などの著者で知られ、各種メディアでも著名な、愛知大学の西本昌司教授です。石材好きの皆さん、是非ともご参加ください。



元赤坂「迎賓館赤坂離宮」

日 時：2026年1月24日（土）14：30～16：00
（受付 14:10～）

場 所：神奈川県立生命の星・地球博物館講義室
小田原市入生田 499（箱根登山鉄道「入生田」駅から徒歩5分）

講 師：西本昌司氏（愛知大学）

参加費：無料

対 象：どなたでも（友の会会員・一般を問いません）

申込み：事前申し込み不要！当日会場へ
（先着 80 名）

主催：生命の星・地球博物館友の会地学グループ
問合せ：長山武夫 電話 090-1807-7818

◆ 地話懇話会特別バージョン

『街中石材散歩 in 東京』

愛知大学の西本昌司教授の案内で、東京駅周辺の建造物に使用されている石材の見学会を開催します。東京駅周辺の建造物にはどんな石材が使われているのでしょうか？

石材の視点で一緒に街を巡りましょう。午前みのコースです。



日本銀行本店

日 時：2026年1月25日（日）9：30～12：30（予定）

場 所：東京駅周辺

講 師：西本昌司氏（愛知大学）

丹治雄一氏（神奈川県立歴史博物館）

山下浩之氏

（神奈川県立生命の星・地球博物館）

参加費：50 円（保険代）

対 象：友の会会員

定 員：20 名（申し込み多数の場合は抽選）

申込方法

○往復ハガキ

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館

地学観察会担当宛て

○申込 Web フォームで申込してください

記載事項：行事名・氏名・性別・年齢・会員番号・

郵便番号と住所・電話番号・メールアドレス

申込締切：2026年1月11日（日）必着

※集合場所と時間は返信でお伝えします

※状況によっては中止も考えられますので、ご承知おきください

主催：生命の星・地球博物館友の会地学グループ

問合せ：長山武夫 電話 090-1807-7818

◆ 地図を楽しもう！

地図をお供にフィールドに出れば、興味ワクワク、楽しさ倍増！地図に載っているいろいろな情報を知って活用するためのコツを学びます。地図が少しでも理解できて身近なものになれば、フィールド探索では、今までとは違う世界が見えてきます。午前中は地図の読みかたのコツを学び、午後は地図を持ってフィールドでの実地学習をします。

日 時：2月1日（日）10：00～15：30（予定）

場 所：博物館実習実験室・博物館周辺の屋外

講 師：新井田 秀一 当館学芸員

対 象：おとなの方(小学高学年以上同伴も可)

定 員：14名(定員を超えた場合は抽選)

参加費：会員 600円(地形図代・資料代・保険料など) 非会員 800円(同)

持ち物：筆記具、色鉛筆、昼食、申し込みはがき、お持ちの方はコンパス(方位磁石)

注意事項：午後は屋外に出ますので、歩きやすい服装と防寒への対応をお願いいたします。

この講座は WEB フォーム による申し込みができます。本欄後ろの「友の会主催行事の参加申し込みについて」をご覧ください。

締切り：1月17日（土）往復はがきの場合必着

問合せ：関口 080 - 6508 - 9840



過去の観察風景

◆ よろずスタジオ「溶岩の噴火」

地下にあるマグマは溶岩として地表に流れ出ることがあります。溶岩（ようがん）はどうして地上に出てくるのでしょうか？噴火の様子を、お酢と重曹で模擬実験して観察します。古くから親しまれている実験です。

対 象：どなたでも

申込み：不要／オープン

参加費：無料

場 所：博物館1階講義室（東側）

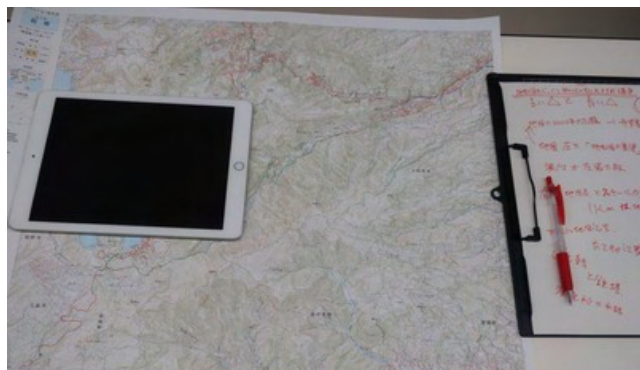
日 時：3月22日（日） 13:00～15:00



午前中は地図の扱いをわかりやすく学ぶ



ブクブクしてきた



タブレットを使って読図をおこなうことも



溶岩の標本を前にお話を聞く

◆ 植物観察会「高尾 日影沢の春」

裏高尾、春の植物観察です。午前中は日影沢林道を歩き樹々の芽吹きを楽しみながらフタバアオイ、ヒカゲスミレなど林床の花を観察、午後は路線バスで少し移動した後、小仏川沿いの遊歩道を歩きます。ハナネコノメやコチャルメルソウ、キバナノアマナなど春の高尾を満喫しましょう。

実施日：2026年3月24日（火） 雨天中止

場 所：八王子市 裏高尾

集 合：JR 高尾駅北口改札 8:50

小仏行バスに乗車、日影で下車

解 散：JR 高尾駅 15:00 頃

講 師：田中徳久氏 当館館長

対 象：オープン（会員外の方も対象）

大人20名（応募者多数の場合抽選）

参加費：会員500円、非会員700円



ヒカゲスミレ



キバナノアマナ

申込み：友の会のWEBフォームで3月11日（水）までにお申し込みください。メールアドレスがない方は3月9日～11日19時～21時の間に電話でお申し込みください。

電話申込先：佐々木 080-5686-6762

当日連絡先：佐々木 同上

小久保 090-4136-3025

*詳細はメールでお知らせします。

◆ 2026年3月地話懇話会

「酒匂川の土手散歩－観察会」

話題提供者：当館学芸員 西澤文勝 氏

日時：2026年3月25日（水）15:00～17:00

※雨天中止

集合受付：15:00 から

集合場所：開成駅前第2公園

（小田急開成駅東口のロマンスカーが目印）

場 所：酒匂川（開成町～小田原市）

対 象：友の会会員大人の方のみ

申込み：往復ハガキにて要申込

※先着15名

締 切：2月末日必着 返信葉書にて回答

参加費：保険代50円

持物等：返信葉書にてお知らせします。



報徳橋より北西の眺望（酒匂川右岸から）

内容紹介

開成駅から栢山駅まで酒匂川沿いを気軽に散歩します。河川がつくる地形や酒匂川の風水害について話しながらの約3kmの道のりとなります。酒匂川の治水の歴史や環境保全の取り組み、生物の多様性などに詳しい参加者がありましたら、当日お話をいただくことも考えております。皆さんの知識と経験を持ち寄って楽しい散歩にしましょう。

◆ ミューズ・フェスタ 2026 へのお誘い

ミューズフェスタ2026が次の要領で開催されます。当日二日間は、例年通り館を無料で開放します。皆さん、お誘い合わせの上、ご参加ください。お子さんが楽しめるワークショップもありますので、ご家族連れでのご参加、大歓迎です。

友の会コーナーは、2階の情報コーナー（ライブラリー前）にて、友の会講座の年間活動紹介のポスターの展示や「友の会通信」と「自然科学のとび

ら」バックナンバーの無料配布、そして昨年につづき、お子様向けの「きのこのスタンプ」で、絵葉書づくりを予定しています。

開催日時：

2026年3月14日（土）9:00～16:30

（友の会コーナーは10:00～15:00）

2026年3月15日（日）9:00～16:30

（友の会コーナーは10:00～15:00）

主な会場：生命の星・地球博物館のエントランス、SEISA ミュージアムシアター、東西講義室、2階情報コーナー、3階実習実験室などです。

※ 当日は混雑が予想されますので、出来るだけ公共の交通機関をご利用ください。



2025年のオープニング風景



2025年の友の会ポスター展示



2025年きのこのスタンプ作業風景

友の会主催行事の参加申込みについて

- ◆行事案内に申込み方法が指定されていない場合、往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。
- ◆必要事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項
- ◆行事案内に申込み方法が指定されている場合は指定された方法（メール・電話等）にてお申し込みください。
- ◆現在、一部の講座でWEBフォームによる申込受付を行っています。以下のQRコード又はURLよりアクセスして、申込をしてください。
- ◆WEBフォームによる申込は、下記QRコードまたはURLからお願いします。
URL：<https://forms.gle/q2u4VAuVp7r8cc4y7>



注意！

- 参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。
- オープンの行事は会員以外の方も参加できます（参加費が会員とは異なる場合があります）。
- 小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。
- チラシの発行されない行事もありますので、直接＜連絡先＞へお問い合わせください。
- 持ち物など詳細はメール・返信はがきに記載されます。

次号は、2026年3月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.29、No.3、通巻130号 2025.12.15 発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>
X：[@kpmtomo](https://twitter.com/kpmtomo)